

* 5分前着席黙祷をこころがけましょう

司 式 熊 田 雄 二 牧 師

前 奏

奏 楽 五 十 嵐 美 代 枝 姉 妹

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 6 : 1 わ れ ら の み 神 は あ め つ ち す べ ま す

国 々 島 々 喜 び た た え よ ア ー メ ン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 (詩 編 51 編)

かみ 神よ、わたしを^{あわ}憐れんでください。おんいつく 御慈しみをもって。ふか 深い^{おんあわ}御憐れみをもって、そむき 背きの^{つみ}罪をぬぐい去ってください。わたしの^{とが}咎をことごとく^{あら}洗い、^{つみ}罪から^{きよ}清めてください。わたしは^{とが}咎のうちに^う産み^お落とされ、^{はは}母がわたしを^み身ごもったときも、わたしは^{つみ}罪のうちにあったのです。

わたしを^{あら}洗ってください。ゆき 雪よりも^{しろ}白くなるように。かみ 神よ、わたしの^{うち}内に^{こころ}清い心を^{そうぞう}創造し、^{あた}新しく^{たし}確かな^{れい}霊をさずけてください。すく 救いの^{よろこ}喜びを再びわたしに^{あじ}味わわせ、^{じゆう}自由の^{れい}霊によって^{ささ}支えてください。しゅ 主よ、わたしの^{くちびる}唇を開いてください。この^{くち}口は、あなたの^{さんび}賛美を^{うた}歌います。主イエス・キリストの^{しゅ}御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、^{なにもの}何者をも^{かみ}神としてはならない。
2. あなたは自分のために^{ぞう}刻んだ^{つく}像を造ってはならない。それに^ふひれ伏してはならない。それに^{つか}仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの^{かみ}神、^{しゅ}主の名を、^とみだりに^{とな}唱えてはならない。主は、^なみ名を^とみだりに^{もの}唱える者を、^{ばつ}罰っしないではおかない。
4. ^{あんそくにち}安息日をおぼえて、これを^{せい}聖とせよ。
5. あなたの^{ちち}父と^{はは}母を^{うやま}敬え。
6. あなたは^{ころ}殺してはならない。
7. あなたは^{かんいん}姦淫してはならない。
8. あなたは^{ぬす}盗んではならない。
9. あなたは^{りんじん}隣人について^{ぎしょう}偽証してはならない。
10. あなたは^{りんじん}隣人の^{いえ}家をむさぼってはならない。^{りんじん}隣人の^{つま}妻、またすべて^{りんじん}隣人 ^{もの}のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、

申命記5)

* 賛美歌 73 : 1 人よなが罪のおおいなるを嘆き 悔いて涙せよ
このゆえキリスト、父のもとを去り この世に来ましめ
死にたるを生かし 病を取り去り 遂に時いたり
人の罪のため 十字架の贖い 終えさせたまえり アーメン

共同の祈禱 祈禱書36 平和を創り出す日

平和の源であり調和を愛される神さま、あなたがくださったキリストは、実に、わたしたちの平和であります。それゆえ、あなたを知ることは永遠の命であり、あなたに仕えることは完全な自由であることを覚えて、心から御名を賛美します。

キリストは神の国の完成のために再び来られますから、わたしたちは、教会と国家の改革のために、絶えず目をさましてキリストの恵みを祈り求め、そのために努力することができますように。
 (エフェソ2、「教会と国家」四)

献金 (黒) 教会活動 (赤) 8.15集会を覚えて 70
今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ

アーメン

聖書朗読 マタイ福音書 6章5-15、25-34節 (新約聖書9頁)

説教・祈禱 礼拝は生命②「主の祈り」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 52 : 1 たくみのわざをば
たくみのわざをば みずからつとめ 世人の重荷を 分かちしイエスよ
ひたいに汗して 日ごとの糧を かちうる我らに力をたまえ アーメン

* 主の祈り 祈禱書1

天にまします我らの父よ
 願わくは御名をあげさせたまえ
 御国を来たせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
 我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
 我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
 我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
 国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌栄 67主イエスの恵みよ
主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ ああ御栄えよ アーメン

* 祝禱
 後奏 (黙禱)

I 礼拝指針 第三十五条（主の祈り）

キリストがその弟子たちに教えられた主の祈りは、会衆による公的祈りとしても用いられる。また、三要文として知られる、使徒信条、十戒、主の祈りを用いることは公的礼拝に適切である。

「主の祈りに生きる者は、『まず神の国と神の義を求めよ』。そうすれば、「日用の糧」は加えて与えられる。だからまず、『御国を来たせたまえ』と祈れ」と主イエスは言われます。これが主の祈りの心がけです。

「御国を来たせたまえ」ということが実現するには「神の義」が不可欠であると、主イエスは言われます。神の義は、不安定な人間の義ではないことが「山上の説教」全体から教えられます。義とは正義の「義」ですが、神が求め神が満足な正義が「神の義」です。天国行きのパスポートに「神の義」というスタンプが押してあれば、神の国への入国が許可されます。

そこでキリストが教えてくださる天国は、死んだあとに行く所に限定されません。今から行ったり来たりできる不思議さがあります。「御国を来たせたまえ」と祈れ、とおっしゃったのですから、まず天国の方から来る不思議さがあります。キリストを信じる心に神の国が来る不思議さがあるのです。心にキリストがおられるなら神の義が入るからです。

最初の人間アダムとエバは、墮落する前、エデンの園で「神の義」を持っていました。つまり、エデンの園は、単なる楽園ではなく、「神の国」でありました。「神の国」には「神の義」があったのです。しかし、最初の人間が神に背いたのち、エデンの園は神の国ではなくなり、地上には「神の義」はなくなりました。

II 主の祈りに生きる者は思い煩うことがない

しかし幸いなことに、私たちは人間の墮落を、聖書という救いの書物から知ることができるのです。エデンの園の墮落物語が聖書の始めに出てくるのは、救いの物語が展開される舞台設定だからです。その舞台の主人公がイエス・キリストです。墮落物語が延々と続くのは、神の忍耐を表わすため、罪からの救い主を準備するためでした。ですから、子ども向けの聖書物語でも、けっこう長いです。

聖書が人間の清さ正しさを義として教えるのなら、これほど分厚くならないでしょう。道徳的教えの部分だけでよいでしょう。十戒だけでもよいでしょう。た

だし、神の目から見て二つのことを完全に行なう必要があります。一つは、十戒を行なうことにおいて、100%清く正しい義を獲得すること。もう一つは、十戒に違反したことにおいて、100%神が満足なさる償いをする事です。

しかし、アダムの子らである人間には、そんな力はないことをご存じですから、神は天から神の御子を遣わしてくださいました。キリストは、100%の義を獲得し100%の償いをしてくださいました。そうして、神の子キリストを信じる者を神は満足し、神の義を与える約束をしてくださいました。それが、旧約新約の約束の書物、聖書の契約です。

だから、キリストを信じる人の心の中には神の義が入り、神はその人の中にキリストを見て満足されます。そこで、キリストを信じる人は、死んだら天国に行けるかもしれないというあやふやな願望ではなく、今キリストを信じているこの私に、天国が永遠の命と共に来て私の中に入っていると、確信が与えられるのです。

だから、衣食住のことを思い煩って、はかない一生を送ることからは解放されているのです。神の御子の命という、最高のものを与えてくださったのですから、他の必要なものは皆添えて与えてくださいます。それが、天地創造の神です。主の祈りは、33節「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」という、約束と恵みに満ちたものなのです。

このような主の祈りの心を持つ者は、まず第一に永遠の御国に必要なことを求め、第二にそのために必要なことを求める祈りが訓練されます。それが主の祈りの内容の順番です。十戒の第一の板と第二の板と同じ順番です。まず神への愛、それから人への愛です。

III 主の祈りの順番に従って、週報の祈りの課題は並べられている

1(日) 礼拝5分前着席・私語を慎み黙禱＝天にまします我らの父よと礼拝に備える。「父よ」と呼ぶからには、我らは神の子らとされている。心を高く上げて天の神の前に出る。神の子らは、まず神を崇める者たちだから、御名を崇めさせたまえと祈る。

2(月・火・水) 御国を来たらせたまえ

(月) 御国を来たらせる働きを年間テーマを覚えて祈る。

(火) 伝道による御国の進展を覚えて祈る。

(水) 上福岡教会以外の御国の拡がりを献金の行き先を覚えて祈る。

3(木・金) 御心の天になるごとく地にもなさせたまえ・・・ここで、心を地上に下げる。同時に、地上での神の子らの使命を覚えて祈る。

(木) 御国は神がお造りになった天地万物の全てに及ぶ。だから、

たとえこの地上がどんなに悲惨であっても、この世は神の国の完成に向かう。だから、私たちは、失望落胆しないで、この世を良くする努力をやめない。次世代への隣人愛から、より良い世界を受け継がせたい。だから、「この世界や国々を治める働きをする人々は神の僕とあって、彼らのために祈りなさい」という聖書の教えに従って祈る。

(金) が具体的な我らの日用の糧・・・

この世を神の国としていくために、この世で私たちに必要なものを祈る。

日ごとの糧＝体と魂の両方に必要なもの。互いの健康と経済生活のために祈る。

この世を神の国としていくために、特に必要なのは霊的闘いをする魂の力。だから、互いに赦し合う心、悪の誘惑に負けない心のためには、特に魂の糧が必要。

4(土) 曜日は、再び主の日に目を向ける。神を礼拝することを覚えながら、「国と力と栄えとは・・・」と再び心を高く上げて栄光を神に帰する用意をする。この部分は後代の教会が付けたものだが、まことにふさわしい。教会のかしらイエス・キリストは、救いを完成するために、世の終わりに再び来て、悪魔的勢力を滅ぼし、栄光の御国を父なる神に引き渡される。

IV 「我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく」の「ごとく」とは

マタイ福音書の主の祈りでは、「赦すこと」について、最後に主イエスご自身、もう一度繰り返して強調しておられます＝14.15節。

文語で唱えていると、「ごとく」は条件のように感じられます。新共同訳聖書は、条件ではないように工夫しています。12節は慎重に訳されています。確かに条件ではないのですが、14.15節で、この祈りだけは繰り返して強調しておられるので、赦す心を持たないなら、キリストから赦された心を持っていない、だから神からも赦されないと断言しておられます。

キリストがその人の心の中におられるなら、その人から神の国は始まります。御国を地上に来たらせる働きは、人の中に住まわれる救い主から始まるからです。御心の天になるごとく地にもなされるためには、天からこの世に来てくださったキリストに倣うことが必要不可欠なのです。